



体験クルーズに参加した山崎さんと川嶋さん

一生忘れない 素晴らしい体験

B & G 体験クルーズ

海洋体験クルーズが、3月27日から4月1日まで小笠原・父島で行われ、全国の小中学生446名が洋上生活や野外活動を体験しました。

光町からは、光中3年の山崎大輔さんと川嶋広大さんが参加し、様々な活動をおして海や自然の素晴らしいさに触れ、有意義な6日間を過ごしました。

体験クルーズ に参加して

山崎 大輔

「3月27日」この日から始まった6日間の体験は一生忘れないでしょう。

総勢446人、船員を合わせると500人近い人員を乗せたふじ丸はとても大きく、なんとプールまでついていました。僕は「友達ができるかなあ」と不安でしたが、すぐにみんなと仲良くなれて安心しました。

僕の部屋の仲間は年下で、僕が部屋長でした。部屋長と聞くとやりたくないと思う人もいるだろうけど、やはり年上としての責任で快く引き受けました。

船の揺れに慣れてきた頃、船の中ではパーティーが催されました。パーティーでは、「皆と談話して仲を深めよう」というキャッチフレーズが込められているようです。食べ物は豊富な品揃えで、おいしく和気あふいといと過ごすことができました。

2日目、天気が良く海洋観察日和となりました。小笠原に行く途中にある鳥島にはアホドリがいて、そこは住処になっていました。アホドリは天然記念物だそうです。

小笠原の海は綺麗なエメラルドグリーンのような色で、今すぐにでもイルカが出てきそうな静かな海でした。でも本当は波があったほうが出てきやすいそうです。小笠原では、シーカヤック、シュノーケリング、南洋踊りなどをしました。僕はシュノーケリングが1番心に残りました。海が澄んでいて魚や珊瑚がたくさん見えたのでとてもうれしくなりました。

小笠原は1度も陸続きになつたことが無く、小笠原諸島特有の固有種がたくさんあります。その固有種をもつてきてはいけないということもわかりました。

また、小笠原には小笠原丸という船が6日に1回しか本土と行き来しないそうです。従って、運賃がかかるので売っているものの値段は、本土の定価の

2倍だそうです。

今回の体験はなかなかできる事ではありません。共同生活の楽しさや厳しさも6日間の体験があったからだと思います。この6日間の体験は一生忘れないでしょう。

体験クルーズ を終えて

川嶋 広大

僕は、3月27日から4月1日までの6日間、海洋体験学習B & G 体験クルーズに参加しました。

東京湾の晴海埠頭から「ふじ丸」という船で出航しました。

目的地は、小笠原諸島です。船の中には、部屋以外にプールや大浴場、シアタールーム、ダイニングルーム、メインバー、ショッ

プなど色々な設備がありました。初日に行われたウェルカムパーティーの料理はとてもおいしく、このウェルカムパーティーで仲良くなった友達もいました。2

日目からは、朝の集いでラジオ体操をやり、3日目には、やっと小笠原諸島の父島に上陸しました。

上陸1日目は、最初にホエールウォッチングを行いました。残念ながらクジラのシッポを瞬間だけしか見ることができませ

ませんでした。次は自然観察をしました。ハイビスカスにバナナの木、それとヤシの木もありました。その次にシーカヤックに乗りました。風が強くて、こぎにくかったです。

上陸2日目は、最初にレスキューを行いました。色々なレスキューの道具を使いました。次はダイビングを行い、色々な海の生物を見ることができました。カメの放流も行いました。僕は代表者に選ばれ、ウミガメを持つことができました。この後船にもどり出航しました。

5日目は、船長さんのお話を聞いて、その後にワークショッブ活動を行いました。「ワークショッブ」というのは、組ごとに分かれて小笠原で学んだことを発表しあうことです。僕の組は、小笠原の海を表現するような踊りをしました。その後にはフエアウェルパーティーがあり、おいしそうな料理がいっぱいありましたが、でも次の日にはもうお別れだと思うと悲しくなりました。

そして6日間の体験クルーズが終わりました。本当に参加できて良かったです。

